

家庭教育力の強化を図る

家庭と学校の連携を深めるPTA活動を目指して

犬山市立南部中学校PTA

1 はじめに

本校は、犬山市の南部に位置し、南は小牧市、西は大口町と隣接している。犬山市は犬山城を中心とした城下町や明治村、リトルワールドなど、北部地区は観光地として活気ある町づくりが盛んである。一方南部地区は田畑が広がっていたり工業地区となっていたりして北部とはやや異なる風土がある。本校校区内にも多くの工場が立ち並ぶ地域を抱えているが、地域のコミュニティとのつながりがたいへん深く、校区内では2つのコミュニティが独自の活動を展開している。



【校舎全体の写真】

本校の全校生徒は405名、PTA会員数は372名で学級数は特別支援学級を含め14学級の中規模校である。グラウンドは桜の木に囲まれ、中庭には紅白のハナミ

ズキの木が植わっている。学校の周りには田畑が広がり、のどかで季節に合わせた花々や緑豊かな環境の中、落ち着いた雰囲気の中で教育活動を推進している学校である。

このような環境の中で学ぶ子どもたちの成長を支援し促進するために、親でもある大人として何ができるのか、また、暗いニュースが多いこの時代に生きていく子どもたちにとって、今必要なものは何なのかを探っていく機会としたい。

2 研究への取組

(1) PTA組織と活動

PTA役員は会長・副会長・書記・会計・会計監査を含めて7名である。委員は各地区より選出された54名で、それぞれが4つの委員会に属している。委員会は「学校支援委員会」「情報委員会」「カルチャー委員会」「すこやか委員会」の4つである。

「学校支援委員会」は資源回収の支援や体育大会で使用する駐車場の草刈り、「情報委員会」はPTA新聞の作成、「カルチャー委員会」はカルチャー講座の企画運営や各種講演会等への参加、そして「すこやか委員会」は学校保健委員会の企画運営などの活動を役割としている。しかし、ここ数年はコロナ禍において活動を縮小・中止しているのが現状である。

そして近年は、PTA活動存続の在り方を見直す過渡期と重なり、

持続可能なPTA活動を模索しているところである。

(2) 研究のねらい

本校のPTA活動の目標および活動方針は、愛知県小中学校PTA連絡協議会のものに則って定められている。しかし、コロナ禍で上記のように思うような活動ができないため、原点に立ち返り、「家庭教育力の強化」を重点目標にして研究を行った。子どもとともに考え、学び、行動し、親としての自覚を高めるとともに、自らの責任を果たし家庭教育の充実を図ることをねらいとした。

3 実践活動の概要

(1) 犬山市子育て八策

今年度の研究にあたり、拠り所としたものが、犬山市の「子育て八策」である。「犬山子育て八策」は、犬山市小中学校PTA連合会で話し合い、平成25年度に作成され、以降時代に合わせて改訂されてきたものである。ねらいは、各家庭での子育ての参考になるもの、となっている。ここで示されている八策は以下の通りである。

- 1 あいさつ 笑顔であいさつをしましょう
- 2 人間関係 「ありがとう」を忘れないようにしましょう
- 3 言葉 きれいな言葉遣いをしましょう
- 4 豊かな心 相手の気持ちになって物事を考えましょう
- 5 家庭 良いところを見つけてほめましょう
- 6 生活 自分でできることは自分でさせましょう
- 7 食育 食べ物に感謝の気持ちをもたせましょう
- 8 安心安全 出かける時は、「行き先」「誰と」「帰る時間」を尋ねましょう

この八策にはそれぞれに解説があり、「親も子ども共に育ちましょう」というキャッチフレーズの下にチェック編も用意されている。どの項目も決して特別なものではなく、当たり前のことであり、常に大切にしたい内容ばかりである。ただ、家族だからこそその難しさもあるので、改めて一つ一つを意識して家庭で取り入れていくよう、PTA総会の折に会員の方々に周知をした。

1から3については毎日使う言葉を親が意識して使うよう心がけた。子どもにも感謝の気持ちを言葉に出すようにした。また、7については一日のうち家族でそろって食事をとれるようにしたり、「いただきます」や「ごちそうさま」をみんなで言うようにしたりした。8についてはスマートフォンの普及で忘れがちになっているが、親として子どもの安全を最優先する意味でも声かけをするようにした。

そして、今年度はこの八策の中で5と6を重点的に実践することにした。

(2) 家庭

5「家庭」の解説は次のようになっている。

よくないところばかりを見つけて指摘すると、子どもは自分に自信がもてなくなります。よいところを見てほめれば、自分に自信が芽生え自己肯定感を高められます。

これを踏まえて学校と連携し、1年生を対象にした健康教室にPTAも参加をした。健康教室ではピア・サポート講習会が開かれた。講師の先生が招かれてワークショップ形式で行われた。参加したPTA役員や委員は、はじめこそ「参観」という、やや距離のある雰囲気だったが、生徒と一緒にピア・サポートトレーニングをしたりアサーションで自己表現したりして、積極的に取り組む姿が見られるようになった。



【ピア・サポート講習会の様子】

この時間の中で、ほめ言葉のもつ力について身をもって体験したり、生活を楽しく充実させる会話スキルを学んだりした。

講習会終了後はPTA役員・委員同士で、「今日はさっそく家族で試してみよう」とか「今日学んだ会話スキルを生かして、子どもはもちろん家人にも、家族みんなが幸せな気持ちになる声かけを心がけてみよう」といった話で盛り上がった。面と向かって自分の子どもや家族をほめることはなかなか難しいが、今回学んだゲームのような遊び感覚の中で行った活動を試してみると、家族でとても楽しい時間を過ごすことができた。

(3) 生活

6の「生活」の解説は次の通りである。

子どもに樂をさせようと、つつい手助けをしたくなりますが、なるべく見守り、自分の力でいろいろなことに取り組めるよう励ましましょう。“自分でできる”という力は、子どもに自信を与え視野が広くなり、いろいろなことに積極的に取り組む原動力になるでしょう。

これを踏まえて、地域で行われる「ゴミゼロ運動」に親子での参加を促した。本校には2つのコミュニティがあるが、このコミュニティ主催の「ゴミゼロ運動」が同日に開催されることが分かり、地域や学校と連携して参加者を募った。たいへん暑い日となったが、親子でともに汗を流して活動することで、子どもの行いを間近で見られたり互いに

声を掛け合い会話が弾んだりして、とても有意義な時間となった。また、子どもとともに地域の行事に参加することで、地域への帰属意識も高めることができ、一石二鳥の効果をもたらした。

また、学校の資源回収の集荷を親子で一緒に行った。資源回収は生徒主体で行われるものだが、そこに親として参加し積極的に支援する姿を見せることが、家庭教育の礎をつくる一つ



【ゴミゼロ運動の様子】

であると考えている。多くの親が参加する様子を目にすると、子どもたちが学ぶ学校の支えとなる土台の力強さを感じた。

子どもは中学校に上がり親の見えないところで大きく成長をしている。小さかった頃のままの感覚でいると、いつまでも子ども扱いをしてしまう。このように家の外で子どもが活動する姿を見られると、子どもの成長を一番強く感じられる。そうすると家庭での子どもの見方も変わってくると思う。子どもの成長を見られるのは何よりもうれしいものであるが、一方で私たち親も成長しないといけないと感じる一瞬でもある。

4 おわりに

日々のニュースでは、親が子を、子が親を殺めるというような信じられない出来事が報道されている。そんな凄惨な事件を見聞きするたびに家庭のもつ力の弱体化を感じざるを得ない。

そんな中で「家庭教育力の強化を図る」という子育ての最中の家庭では最も耳の痛い言葉を掲げ研究を行った。私たち親は常に迷いながら正解のない答えを求めて子育てをしている。公助の子育て八策を抛り所に、共助として学校や地域の大人とともに、自助として自分たちそれぞれの家族の形の中で、子どもたちのためにできることを続けていくしかない。

今回のピア・サポート講習会にしてもゴミゼロ運動にしても、学校や地域との連携があって、私たちPTAでの参加が実現した。「中学生」という人としてはまだまだ未成熟な子どもたちのために、私たち大人はそれぞれの立場で、できることを連携してその成長を支援する体制を整えること、この重要性を改めて実感した。

子育てというのは親が育ってきた環境でずいぶん違いがある。だからこそ私たち親同士も横のつながりを強固にして、互いの家庭の教育力強化を図りたい。そのためにも時代に見合ったPTA活動の充実を今後も目指していきたい。